

# 国内連携

グローバル化やIT産業の進展といった要因から、国際交流をめぐる環境は大きく変化しています。また、日本各地で活躍しているさまざまな国際交流団体とその担い手も、環境、福祉、都市や社会の活性化など多様な分野で活動しており、従来の親善交流型から地域社会の課題解決や協働につながるものとなっています。ジャパンファウンデーションは、国内の国際交流団体間、あるいは個人間の横断的な連携と参加型交流を支援しています。

## 国際交流セミナー

国際交流をテーマにさまざまなセミナーやシンポジウムを開催。

国内連携の促進を目的として、国際交流に関する多様なテーマを取り上げ、セミナーを開催しています。2004年11月には、サントリー文化財団との共催でシンポジウム「地球が舞台～地域文化と国際交流を考える」を開催しました。基調講演は、川淵三郎日本サッカー協会キャプテンに、またパネル・ディスカッションではモデレーターに御厨貴東京大学先端科学研究センター教授、パネリストに上

山信一慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授らを迎え、それぞれの風土と歴史にはぐまれた多様な地域文化は世界につながるソフトパワーであり、さらに地域変革の源になりうるとの可能性が示唆されました。

また、2005年が日・EU市民交流年であることから「日・EU市民交流セミナー～日本とEUの新たな出会い」を開催しました。

このほか、「ワン・ワールド・フェスティバル」、「国際教育シンポジウム～学校現場から国際教育活動を見直す 日本および海外双方の視点から～」、「第2回国際交流・協力実践者

全国会議」、「今、なぜ新渡戸か？～『武士道』そして五千円札の顔～」などの事業への共催と助成を行ないました。



シンポジウム「地球が舞台」

## 国際交流フェスティバルへの参加

全国各地の国際交流フェスティバルに参加。

ジャパンファウンデーションでは、広くみなさまに活動の様子や公募プログラムについて知っていただくために、全国各地で開催されている国際交流フェスティバルへの参加を進めております。

会場では、インターネット日本語能力試験「すしテスト (p.25)」のデモ体験を行ない、日本語学習者にとっての難しいポイントが何なのか、という日常ではなかなか体感できない機会を提供してきました。

参加予定のフェスティバル情報はホームページでお知らせしています。



国際交流フェスティバル会場にて



クイズラリー（むさしの国際まつり）

## 京都支部

事務所を移転し心機一転。秋の定番イベントも大盛況にて終了。

京都支部は2004年3月6日に事務所を移転し、気持ちも新たに「日独仏シンポジウム」などの事業に取り組みました。なかでも、関西国際センター・京都新聞社共催イベント、第31回「国際交流の夕べ - 能と狂言の会」は、秋の京都を彩る年中行事として定着。関西在住

の外国人研究者、留学生や日本人を対象に、日本の伝統文化への理解促進を目的に実施され、毎回高い評価を得ています。今回、能は観世流・片山清司師「敦盛 二段之舞」、狂言は大蔵流・茂山千五郎師「二人袴」を上演。アンケート結果では、「大変良い」「良い」の割合が90%と、大変好評でした。



日独仏シンポジウム

## ジャパンファウンデーションボランティア制度

ボランティア活動を通して、  
 国民レベルでの国際交流を実現。

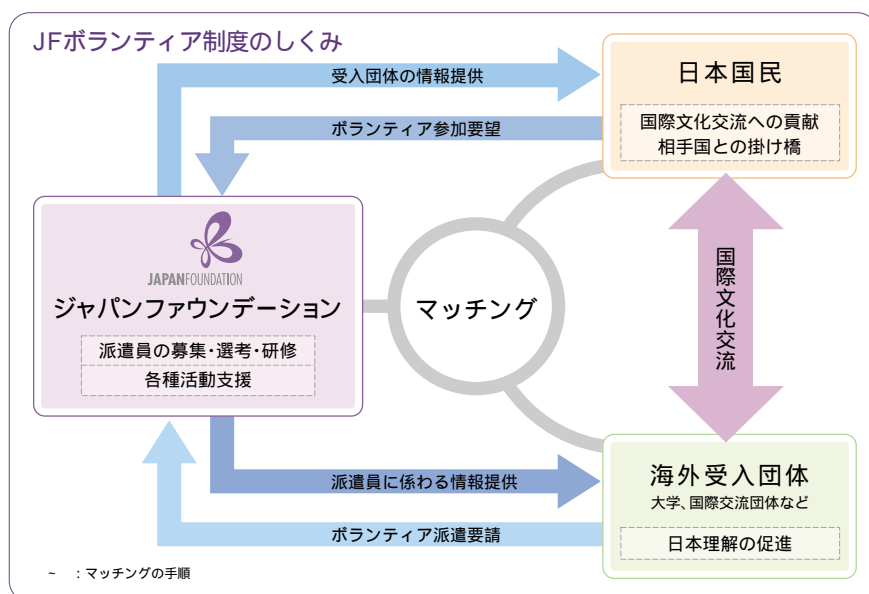
近年、諸外国において、日本文化に対する関心が高まり、日本との国際文化交流を希望する声が増えています。また、日本国内でも、国際文化交流にボランティアとして貢献したいという要望が多く寄せられていました。こうした海外でのニーズと日本国内のボランティアに対する熱意の高まりを受け、国際文化交流を国民レベルで促進することを目指し2004年度に「ジャパンファウンデーション・ボランティア制度」を新設しました。

2004年度は、海外での業務遂行に必要な一定程度の技能や専門性などを条件に9月から12月までに3分野で募集・選考を実施しました。海外の日本語教育機関で、ジャパンファウンデーションから派遣された専門家などの支援を受けて日本語を教える「海外日本語教育指導助手」や、海外の二国間友好団体などで日本との文化交流事業の企画運営業務の補助に当たる「文化交流企画運営補助」、さらに海外の大学・大学院の日本研究講座で講義や指導

を行なう「シニア日本研究客員教授」の各分野に初年度から多くの応募者が集まりました。

決定したボランティアたちは2005年度中に順次各受け入れ団体へ派遣され、現在各地で精力的に活動しています。

このボランティア制度は2005年度以降も引き続き実施し、より多くの方々に参加いただけるよう内容の充実を図っていきたいと考えています。



## 修学旅行生等の受け入れ

見学・訪問の受け入れのほか、  
 職員による学校訪問を実施。

ジャパンファウンデーションでは本部や附属機関で外部からの見学・訪問を受け付けています。2004年度本部には、全国から10組の修学旅行生が来訪しました。他に、大学の国際交流学科の研究室やゼミ単位での訪問も受け付けております。

またジャパンファウンデーションの職員が学校等の教育現場へ伺い、海外事務所駐在時代のエピソード等も交えながら、文化交流のダイナミズムについてお話をさせていただくといったことも行なっております。

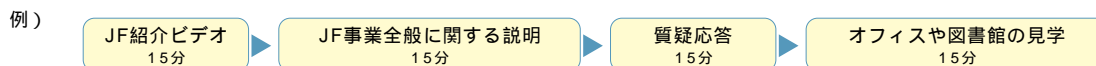
国際交流や異文化理解教育、多文化共生等といったテーマについて、私どもの事業を通じて一緒に考えませんか？



職員が文化交流の現場について語ります

### 修学旅行生等の受け入れ概要

日時：平日の10:00~12:00、14:00~17:00の間で1時間程度  
 内容：事前にみなさまから質問表（どういったことを知りたいのかについて）をいただき、それを基に担当者の方で準備させていただきます。



人数：最大10名程度（10名以上の場合は応相談）

申込方法：1. 電話で、情報センター（Tel: 03-5562-3538）までご連絡ください。

2. ご希望の日時をお伝えください。

3. 追って、訪問される方全員の氏名および質問事項（知りたいこと、関心があることなど、なんでも結構です）をFAXで情報センターまでお送りください（Fax: 03-5562-3534）。

日本語国際センター（埼玉県さいたま市）や関西国際センター（大阪府田尻町）でも、外部からの訪問を受け付けております。

ご関心のある方は、以下の宛先までお問い合わせください。

日本語国際センター総務課 Tel: 048-834-1181 関西国際センター総務課 Tel: 0724-90-2601